

つながりの中でくらす  
望まれた人として生きる  
自分らしく生きていく



No. 30

2011年10月発行

## 「未来に向かってチャレンジ」事業

【大阪ガスグループ“小さな灯”運動「子ども支援市民活動助成プログラム」助成】

### チャレンジ体験Ⅰ・すまい

#### (1) グループホーム見学会

日時：2011年7月22日(木) 16:00~18:30

行き先：出発のなかまの会グループホーム(生野区)

参加者：障害をもつ中高生7名、保護者8名、  
自立生活センタースタッフ4名、ほうぶスタッフ2名

グループホームの見学に行ってきました。男性のホーム2軒と女性のホーム2軒を3~5名のグループに分かれて、1グループ2軒の見学をさせていただきました。子ども達が長時間の見学をするのは難しいと考え、短時間の見学にし、詳しい説明や質疑応答は後日の研修会でお願いすることにしました。入居者の方々が、仕事や日中活動から帰宅された時間帯に訪問させていただき、夕飯前に帰らせていただくという慌ただしいスケジュールでしたが、充実した時間でした。子ども本人の見学は珍しいとのこと。子どもが慣れぬホームで「騒いでご迷惑をかけるのでは」という保護者の心配をよそに、ソファでくつろいで雑誌を読みだす子ども、夕飯の準備を手伝い始める子ども、入居者さんと友だちのようにかかわる子どもと、すばらしい順応性を見せてくれました。今回の事業にご協力をいただいている自立生活センターのスタッフにも同行させていただきました。「周辺の住宅とすごく調和が取れていて、地域のなかのグループホームという感じが良かった」という感想を寄せていただきました。



## ＜参加者の感想から（一部抜粋）＞

- ・ 今回見学させて頂いたグループホームは、個人の特性を考慮した造りだったり、リラックスペースがあったりと、生活しやすい工夫された造りになっていました。日常に突然お邪魔して戸惑わせてしまったかとは思いますが、好きなDVDに見入ったり、コックさん姿で料理の準備をしたり…と、「いつもの生活」を実際に見せて頂けてよかったです。小さいと思ってきた我が子も、もう高校生。遠い未来だった大人の姿が、現実のものとして目の前に迫りつつあります。焦ってばかりいる私ですが、見学をさせて頂いて、息子の充実した生活が少しずつ具体的に描けるようになりました。
- ・ グループホームを出られた方も晩ご飯を食べに来られることがあると聞き、出られた後でも心強いだろうと感じました。入居者の方の顔がいきいきしていました。
- ・ 女性のお宅2件を見学させていただきました。どちらもゆったりと落ち着ける雰囲気です『家』だなあと感じました。スタッフの方々も丁寧に説明してくださり、勝手に手伝いたくなかった娘にも晩ご飯の調理を手伝わせてくださいました。当事者の気持ちをまず汲んでもらえるという環境があることが欠かせないと思っているので（それだけではないですが）、それを大事にされているところが心地よくうりました
- ・ 帰り道で娘に「どうだった？」と聞いたら、「忘れました」と答えました。「行ったところのことは？」「写真がいっぱいありました」。ちょっと考えて「めちゃくちゃ楽しそうでした」と話してくれました。私も同じ感想です。建物も内装も、きれいでした。個人のお部屋にはその方の私物がたくさんあって、居心地のよさがわかりました。スケジュール表にはその日の支援者が顔写真でわかるようになっていて、配慮されていました。好きなこと、やりたいことが大事にされ、毎日の暮らしが落ち着いて繰り返されるというあたりまえのことがあたりまえにそこにありました。「夢のような暮らし」といっしょに見学に行ったお母さんが言われていましたが、ほんとうにそう思います。住まい方のお手本をみせていただいた気がします。
- ・ グループホーム2軒を見学させて頂きました。1軒は、一番新しいグループホームということで、シンク部分をアイランド型にして左右どちらからでも通り抜けられるようになっていたり、光の刺激を和らげるために間接照明を採用されたり、共用スペースでのストレスを低減するいろいろな工夫をされていました。息子は「ただいま」とでも言いそうなほど自然に部屋に入って、あちこちのぞいて確認した後、リビングや2階のスペースでくつろいでいました。本棚の椅子の下は、穴ぐらみたいなちょっとした隠れ家のような空間。息子ならきっとお気に入りの場所になるだろうと思いました。2階の居住スペースに隣接しているベランダに洗濯機が設置されていて、洗い上がった洗濯物をそのまま干せるようになっていました。洗濯物を干すのが好きな息子がうれしそうに干している姿が思い浮かびました。以前住んでいた地域では、当初は近隣とのトラブルもあったそうですが、転居する時には「寂しい」といってもらえるような関係が築けたとのことでした。その経験から今回作られた玄関脇のウッドデッキは、自分たちの生活だけでなく、地域と共に暮らし、地域とのつながりをもてればとの願いを込めた、大切な空間なのだそうです。



- ・ とても自然なたたずまいであること、世話人さんたちの接し方に、ただただ感動しました。そして、そこに住まれている方が、自転車で颯爽と外から帰ってきて、家に入っていかれたのに感激してしまいました。将来、このような生活をするために、親が今何を一番にするべきかをたずねました。「いろいろな人と出会い、いろいろな体験を重ねること。そのためには、ガイドさんとたくさんお出かけすることがいいですよ」と教えてくださいました。将来、子どもが選択できる生活をしていけるように、あきらめことなく取り組んでいきたい気持ちが益々芽生えました。ぜひみんなで力をあわせて夢を実現したいです！！



## （２） 研修 & 交流会

日 時：2011年7月27日（水）13：30～16：00

会 場：城北市民学習センター 研修室2

参加者：障害をもつ中高生6名、保護者8名、  
自立生活センタースタッフ5名、ほうぷスタッフ2名

講 師：自立生活センター・おおさかひがし（障害当事者の方）、  
出発のなかまの会（障害当事者の方と支援者2名）、

居宅介護支援センターてのはな（障害当事者の方3名と支援者2名）

7月22日のグループホーム見学のスライドを見ながら振り返り、感想を共有しました。

最初に、出発のなかまの会の当事者のTさんが「六甲おろし」を歌われ、会場の雰囲気や和やかにしてくれました。スタッフの方からは、入居者会議で家事などの役割を分担して、生活観をもってもらうよう試行錯誤を重ねてきたことや、地域との関係づくりを当事者がしているようすを伺いました。次に、おおさかひがしの支援により、施設から出て自立生活を始められたMさんが、自立に至るまでの経過と現在の生活のようすを話してくださいました。さらに、てのはなの方々からはグループホームでの生活のようすを伺いました。問題があったときは、当事者同士で解決してもらうように心がけていることや、入居者の方同士がうまく距離をとりながら暮らしておられるようすがわかりました。どのグループホームもそれぞれの生活を大切にされ、地域の中で暮らしていくことを改めて考えさせられる研修となりました。最後に、全員が自己紹介をして、感想や意見を交換しました。

終了後、子ども2名とその保護者とほうぷスタッフで、Mさんのお宅を訪問し、「自由に自分らしく暮らしている」とおっしゃった生活のようすを見学させていただきました。

### <講師や支援者の方々の発言から>

- ・ 子どもの本当の気持ちや、子どもがどう生きたいのかを聞くことが大事。
- ・ 親が子どもよりも先に死ぬのは順番として当然のこと。親御さんが元気なうちに、子どもが自分のやりたい生活ができるよう応援してほしい。
- ・ 「失敗する機会すらなかった」という利用者さんもいる。失敗しながら成長してほしい。支援者も支援の質を問い直す。ヘルパーが親になっていないか？年代差をふまえた関係のあり方についても考慮しなくてはならない。

- ・ グループホームといってもさまざまなので、実際の場所や生活の仕方を見て、選んでいくことが大切。本人にあったグループホームを探して、無ければ作る。



### ＜参加者アンケートから＞

- ・ 障害をもっている、自分たちの生活をつくることはできるんだと確かめられた。パワーをいただけたので、良かった。
- ・ 生活している場を見せていただき、お話を聞かせていただいて良かった。「個人将来計画」の中に日々の生活の豊かさと楽しさが感じられた。(子どもも見入っていた)
- ・ グループホームのようすやあり方がよくわかり良かった。今後、親として、どのように取り組んでいくか、考える一歩につながった。
- ・ 1人1人心の豊かな生活というものを考えてくれる人たちに出会えること。若いうちに(適応力のあるうちに)体験を重ねて自立に向けて準備すること。つまずいたら、一度戻って、また、少しずつ前進するように進めていくこと(失敗も大事)。いろいろな大切なことを聴かせていただけて良かった。
- ・ 子どもが自立して過ごす将来の姿の想像の参考になった。よき理解者とつながっているよう、これからも生活していきます。

## チャレンジ体験II・しごと(中間報告)

「しごと体験」の受け入れ先を開拓するため、区内の企業を訪問してまわりました。また、大阪市企業人権協議会旭支部の会議でも広報をさせていただきました。丁寧に聞いてくださいましたが、実際には受け入れが困難だったり、「見学ならどうぞ」と言ってくださった2社についても、子どもとサポーターの日程調整がつかなくなったりと、企業で「しごと体験」はできていません。区内や近隣区の公園事務所に依頼したところ、鶴見緑地公園と扇町公園が快く受け入れてくださり、充実した体験ができるようにと活動内容についても検討してくださいました。旭区役所、旭区社会福祉協議会、旭図書館、区内の福祉施設に対してもご協力をお願いしました。一方、サポーターの募集については、当初、ジョブアドバイザーの方々に依頼することを試みたものの、結果的には実現せず、大学生や元教員の方にボランティアをお願いしたり、ヘルパーで対応したりしています。

### 【「しごと体験」受け入れ先の開拓】

旭区自立支援協議会や北部地域障害者就業支援センターにご協力いただきながら、6月24日(金)～8月15日(月)に、受け入れ先の開拓に向けて以下のとおり取り組みました。

- ・区内の企業7社、城東区大型店舗1店に訪問して、活動の説明と依頼
- ・区内の公共機関（旭区役所、旭区社会福祉協議会、旭図書館）に依頼
- ・大阪市企業人権協議会旭支部の会議での広報
- ・「あさひあったかまち」会議の後、福祉施設への依頼
- ・公園事務所（城北・鶴見緑地・扇町）に訪問して、活動の説明と依頼

### 【「しごと体験」の活動・中間報告】

- 8月 1日（月） 旭区役所 生涯学習講座のチラシ発送の準備作業  
子ども2名 サポーター3名
- 8月17日（水） 牧老人保健施設 おしぼりたたみの作業  
子ども2名 サポーター2名
- 8月20日（土） 旭図書館 事務所内の様々な作業（本の発送準備、カード作り等）  
子ども1名 サポーター1名
- 8月22日（月） 旭図書館 事務所内の作業（本の仕分けなど）やカウンター業務  
子ども1名 サポーター1名  
牧老人保健施設 おしぼりたたみの作業やレクリエーション手伝い  
子ども2名 サポーター2名
- 8月25日（木） 扇町公園 職員さんと一緒に体操後、清掃作業  
子ども2名 サポーター3名
- 8月29日（月） 扇町公園 職員さんと一緒に体操後、清掃と水やりの作業  
子ども2名 サポーター3名  
旭図書館 事務所内の作業やカウンター業務  
子ども2名 サポーター2名
- 8月30日（火） 旭図書館 事務所内の作業（本の仕分けなど）  
子ども1名 サポーター1名  
旭区社会福祉協議会 区社協便りの発送作業  
子ども2名 サポーター2名  
旭区社会福祉協議会ディーサービス レクリエーションの手伝い等  
子ども2名 サポーター2名
- 9月 1日（木） 旭区役所 生涯学習講座のチラシ発送の準備作業  
子ども1名 サポーター2名



11月末まで活動を継続し、「しごと体験」の報告会を以下の日程にて開催します。

12月23日（金・祝） 10時～12時 大阪市立城北市民学習センター 研修室3



# チャレンジ体験Ⅲ・クッキング

## (1) ボランティア打ち合わせ

日 時：2011年8月20日(土) 15:00~17:00

会 場：旭区民センター 集会室3

参加者：学生ボランティア9名、ほうぷスタッフ2名

7月23日(土)に大阪工業大学ボランティア教育研究会の学生さんと事前打ち合わせを行い、その企画案をもとにボランティアの顔合わせと打ち合わせを行いました。

「お弁当に何入れる？」(8月27日)の作業内容・準備物・役割分担や、「買い物&クッキング」(9月3日)に向けて、「仲間づくり」を意識したグループ活動ができるように話し合いました。

また、当日13時半から男子中学生2名とともに「お弁当に何入れる？」の活動を行うこととなったため、大工大の学生さんを中心に振り返りを行いました。



## (2) お弁当に何入れる？

### ①グループA

日 時：2011年8月20日(土) 13:30~15:00

会 場：旭区民センター 集会室3

参加者：中高生2名、学生ボランティア3名、ほうぷスタッフ2名

### ②グループB・C・D

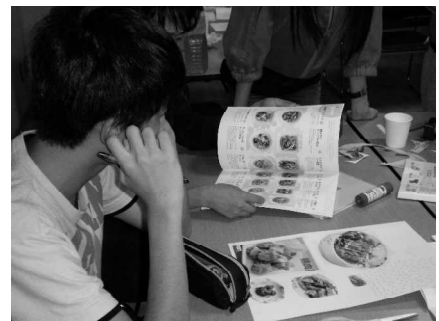
日 時：2011年8月27日(土) 11:00~15:00

会 場：旭区在宅サービスセンター(あさひあったかセンター) 多目的室

参加者：中高生6名、ボランティア13名、ほうぷスタッフ5名

子ども達の日程が合わなかったため、2日間に分けて活動しました。子ども2人とボランティアでグループをつくり、「チャレンジ体験Ⅲ・クッキング」に取り組みます。

「お弁当に何入れる？」では、近くのスーパーにみんなでお弁当を買いに行き、お弁当のメニューや盛り付け方について研究(?)しながら、一緒にお弁当を食べました。買い物や食事介助を通して、子どもとボランティアの関係が徐々に近づきました。次に、雑誌を見ながら好きな「おかず」や「ごはん」の写真を選び、切り取って、画用紙に貼り付け、自分が作りたい「お弁当」を作成しました。選んだ「おかず」の材料を確認し、各グループで、なるべく同じ材料を使用するメニューになるよう、話し合いながら作業をしました。切り貼りして作ったオリジナルの「お弁当」をラミネート加工すると、子ども達は大喜びでした。活動終了後、ボランティアは、子どもと相談しながら作ったメモをもとに、次回の「買い物&クッキング」のための



「買い物リスト」を作成しました。



### (3) 買い物&クッキング (及び、保護者研修会)

2011年9月3日(土) 11:00~15:00に開催予定でしたが、台風のため延期しました。同時開催予定だった保護者研修会も同様に延期しました。

日を改めて、11月23日(水・祝)に開催いたします。

保護者研修会は、会場を変更しました。別紙、案内チラシがあります。改めて、募集をしています。

急に秋がやってきました。ひどい鼻炎が出始め、気温が下がってきたと思ったら、ぎっくり腰をやってしまいました。イベントの秋でスケジュールはいっぱいなのに(涙)。実りの秋ですが、気持ちは沈みがちです。3月の震災、9月の台風と、被災者の方々の暮らしを思うと心が痛みます。

改めて、出会いつながり 夢を語れる地域、一人ひとりが大切にされる地域になることを願い、草の根の活動をしていきたいと思います。

